

リンパ節転移リスク評価方法

早期にがん細胞のリンパ節転移リスクを評価することができる。

概要

がん細胞のリンパ節への転移の有無は、患者の生存率に大きく影響を与える。転移後の致死率が高いことから、早期にリンパ節転移リスクを評価できることが望ましい。しかし、従来の方法（超音波、CT、MRI、PETなど）では、最大短径10mm以下の微小転移巣を同定することは困難であり、早期にリンパ節転移リスクを評価することは困難であった。

本発明者らは、リンパ節腫脹モデルマウスを用いた研究で、がん細胞が所属リンパ節に転移する際、リンパ節内の圧力が上昇するという知見を得た。リンパ節内の圧力を測定することで、早期にリンパ節転移のリスクを評価することができる。

応用例

- 原発巣から転移するがん細胞のリンパ節転移経路の同定
⇒ 必要最小限のリンパ節郭清範囲を決定できる。
- 化学療法や放射線療法などによる抗腫瘍効果の判定、治療後の経過観察

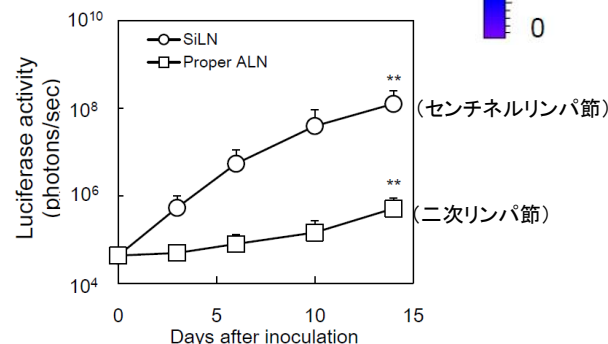
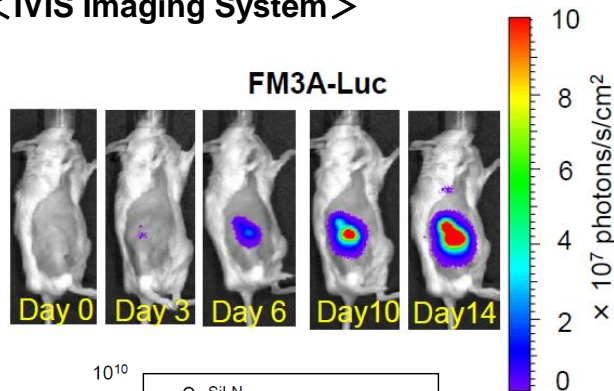
特許データシート

特許番号: 特開2015-192670
発明者: 森土朗、小玉哲也
出願人: 東北大学

リンパ節腫脹モデルマウスを用いたがん細胞転移実験

リンパ節腫脹モデルマウスの腸骨下リンパ節 (SiLN) に、マウス乳がん細胞由来FM3A-Luc細胞を移植し、二次リンパ節である内側腋窩リンパ節 (proper ALN) への転移を観察した。

<IVIS Imaging System>



・細胞移植後、14日目に二次リンパ節への転移が認められた。

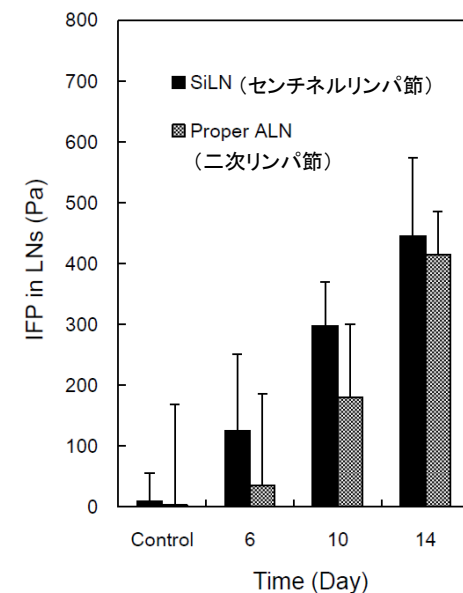
連絡先

株式会社 東北テクノアーチ

TEL 022-222-3049 FAX 022-222-3419

お問い合わせは、[こちら](#) からお願い致します。

<本発明>



・細胞移植後、10日目には二次リンパ節の値が顕著に上昇。
⇒ 二次リンパ節への転移の可能性あり。